



バリアフリー推進レポート



地域の小学生が広島空港で バリアフリーについて学びました！

中国運輸局では、「障害の社会モデル※1」、「心のバリアフリー※2」の啓発とその理解を深めることを目的として、学生や社会人を対象としたバリアフリー教室・各種啓発活動を継続的に実施しています。

この度、三原市立本郷西小学校4年生を対象に、広島空港にてバリアフリー教室を開催しました。

参加児童には、車椅子乗車・バリアフリーに関するクイズの体験、空港内のバリアフリー設備の見学、バリアフリーに関する講話の聴講のほか、空港に関する歴史などの説明も聞いてもらいました。

障害者の日常での困難を実際に体験し、理解することで、自分たちに何ができるのかを考えてもらうきっかけとなったと思います。

また、当日は地元テレビ局の取材があり、真剣な表情で車椅子に乗車する児童の様子が後日放映されました。

※1 障害の社会モデル…「障害は個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって創り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である。」とする考え方。

※2 心のバリアフリー…様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うこと。

バリアフリー教室は令和2年のバリアフリー法改正に伴い「教育啓発特定事業」に位置付けられ、取組を強化しています。



【開催概要】

- ・日程：令和8年7月3日（金）13：20～14：50
- ・場所：広島空港 会議室A、連絡橋、バリアフリースイレ、展望デッキ
- ・内容：①車椅子体験 ②バリアフリークイズ ③バリアフリー設備の見学
④バリアフリーに関する講話 ⑤展望デッキでの空港説明・見学
- ・主催：中国運輸局交通政策部共生社会推進課
- ・協力：三原市立本郷西小学校、広島国際空港株式会社、三原市社会福祉協議会
- ・対象：三原市立本郷西小学校 4年生 29名



子供用車椅子の使い方についての注意事項を三原市社会福祉協議会の方にお話をいただきました。児童たちは真剣に聞いている姿が見られました。



車椅子体験

車椅子に乗車すると、高い場所や低い場所には手が届かないことや少しの段差でも動けなくなってしまうことなど、車椅子利用者、介助者の両方の立場で、日々の困難について体験してもらいました。

バリアフリークイズ

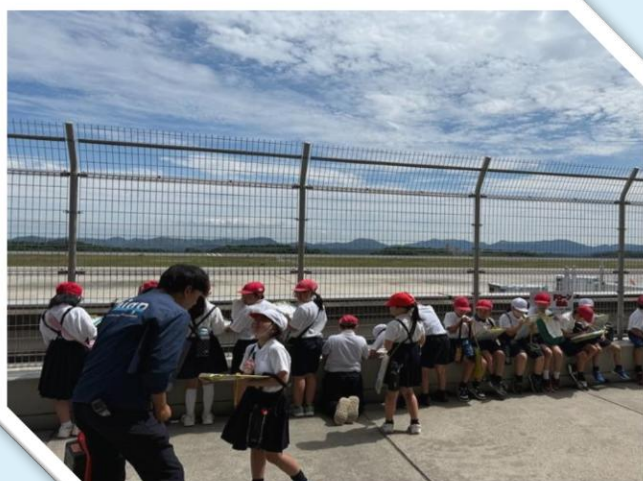
クイズ中には積極的に手を挙げ、学んだことはメモをとる姿がたくさん見られました。

《出題例》

エレベーターの中にあるかがみは、身だしなみをととのえるためにある？

バリアフリー設備見学

空港内のバリアフリースイレ、ベビーケアルームを見学しました。聴覚障害者への緊急事態を知らせるフラッシュライトに興味津々でした。



広島空港説明

広島空港の方に空港の歴史、滑走路、飛行機についてクイズやお話していただきました。途中で着陸する飛行機に児童は前のめりになり観察していました。

バリアフリーに関する講話

三原市社会福祉協議会の方に「体験で、障害者の困難を知っていただいたが、今日の体験はほんの一部であって、もっとたくさんの困難がある。」というお話をしていただきました。



児童の皆さんからお手紙をいただきました！！

気づいたこと、新しく知ったこと

- ・段差があるところで、（車椅子を）持ち上げるのが難しかったです。
- ・車椅子の人は、高いところ、低いところのものを取れないことで少し不便で大変だと気付いた。
- ・「ヘルプマーク」や聴覚障害者を示す「耳マーク」があることを初めて知りました。
- ・バリアフリートイレにあるフラッシュライトは、火事や災害が起きた時に（聴覚障害者）に知らせるライトだと気付きました。
- ・バリアフリートイレは、目が見えない人も耳が聞こえない人も便利に使えるようにしていることを知りました。



これから活かしたいこと

- ・困っている人やヘルプマークをつけている人に気付いたら、優しく声をかけようと思いました。
- ・車椅子に乗っている人が今どんなことに困っているか考え、自分にできることを考えて行動したいです。
- ・今までは周りに障害のある人のために何もしていなかったもので、今度からはちゃんと手伝おうと思いました。
- ・目が見えない人、耳が聞こえない人に気付いてあげて、その人たちの生活を楽にしたいと思いました。

